

平成 23 年 05 月 09 日 「GW の中の人」

掲載日:2011 年 5 月 9 日

平成 23 年 05 月 09 日 「GW の中の人」

長いと思っていた GW もあっという間に過ぎましたね。

こんにちは、桃色ウサビの中の人です。

連休中はみなさんいかがお過ごしでしたか。

連休初日の 29 日

Asahi 自然観のテレビ出演からスタートした僕ですが、

その日(29 日)の撮影が終わってすぐに宮城へと向かいました。

知人の紹介で被災地ボランティアの受け入れをしてくれる団体さんが見つかり

GW の前半は東松島にボランティアに行くことにしたのです。

(さすがにウサビは連れて行けないので、中の人だけ行ってきました)

JR 仙石線の矢本駅近くの運動場にベースキャンプを張って

その周辺の河川の掃除や、民家の泥かきが主な仕事でした。



運動場に張ったテント

(ここで4日ほど寝泊りしてしました。周りのテントも参加者)

僕は河川の掃除をすることになり、

鳴瀬川の河口付近へと向かうことになりました。



河口に近づくほど両岸に漂着物がふえてくる



津波が来たあとの田畑

少し行くと山沿いに電車を発見。

しかし動く様子がありません。

聞くと、この場所で地震にあい、ずっと止まったままだそうです。



止まったままの仙石線の列車

さて、乗り合いで来た車を駐車場に停め

河川敷におりて作業を開始したのですが、

津波で破壊された家屋の残骸が散乱していました。



家だった頃の形がまったくわからない

量も範囲もが大変大きいこれらを

ボランティアの力だけで完全に撤去できるのかということになるのですが、

実際の瓦礫や漂着物の処分は国土交通省の方が担当になっているので、

ボランティアの主な仕事は撤去がしやすいように、

漂着物をまとめていくこととなります。



河川のごみを拾ってはまとめる作業を、川に沿ってつづけていく

この川のずっと上流のほうまで漂着物があり、

遠くまで津波が来たことがわかります。

家の残骸である木片や壁材

家具や畳

衣類や食器といった生活用品の数々

様々なものが流れ着いていました。



川に浸かった車。きっと海沿いから流されてきたんだと思う



家の中のありとあらゆるものが流されてきている

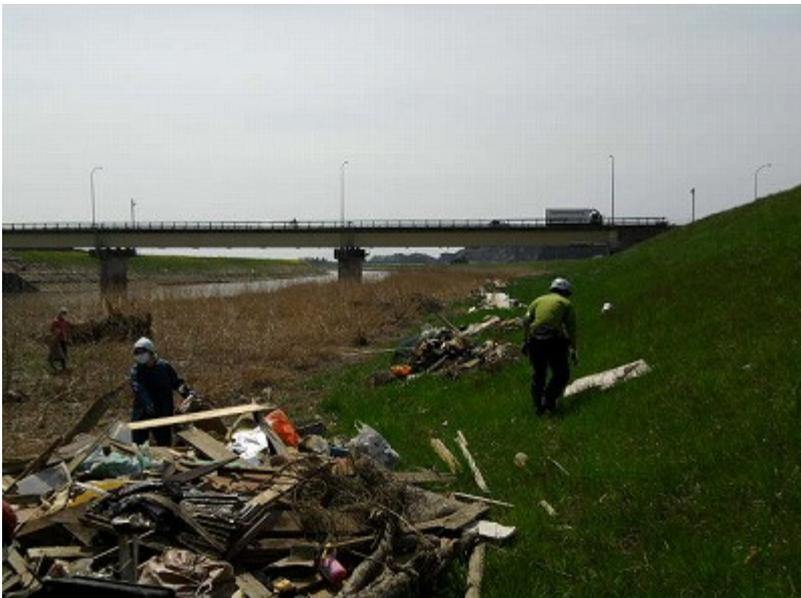
特に畳は、水を吸って大変重くなっているのを、

動かすのは大人が4人がかりの作業になっていました。



20人くらいで作業しましたが、

拾っても拾っても漂着物があります。



漂着物をまとめるとこんな感じになる

この作業に僕が参加してみて感心したのは

「時間を決めて、きっちり終わる」ことでした。

延々と続いている川原。

橋とかの目印があると「あそこまで頑張ろう」とか思ってしまいます。

もちろん目標を決める自体は悪くないのですが、

作業は明日も明後日もあるので、

長い目で続けていくために「無理に今、頑張りすぎないことが大切」と

指揮をとっていた方がおっしゃっていました。

だからこそ、時間できっちり終わって明日に備えるそうです。

あたりまえの話ですが

1日や2日でこの漂着物は消えることはありません。

ゆっくりでいいので、確実に、丁寧に、継続して進んでいくことが、

この活動にとって一番大事なコトなのだと気づかされました。

続きます

次は家の中の泥かき作業をした時の話と

ボランティアに行く際に必要な装備をご紹介します。